

科学技術連携施策群 総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発  
平成20年度対象施策成果報告会「化学物質管理におけるリスク・ベネフィット」報告  
環境・エネルギーG

1. 日 時 平成20年1月29日(木) 10時30分～16時30分
  2. 場 所 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 灘尾ホール(新霞ヶ関ビルLB階)
  3. 参加者 270名
  4. プログラム
- (1) 大江田憲治・内閣府大臣官房参事官より開会の挨拶があり、科学技術連携施策群(総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発)に関する研究開発及び対象施策について話題提供ならびに報告が行われた。また、話題提供・報告本数は8本で、タイトルは、以下のとおりである。

報告後には、安井至・総合科学技術会議連携施策群コーディネータの司会で、講演者をパネリストとして、「リスク評価と認識のされ方」というテーマでパネルディスカッションを行った。

#### 報告タイトル

##### 【話題提供】

- 1) 化学物質管理の最近のトピックス  
総合科学技術会議 化学物質安全管理・活用連携施策群 コーディネータ・主監 安井 至
- 2) 化学物質管理政策の動向と今後の方向性～化審法の見直しについて～  
経済産業省 製造産業局 化学物質管理課長 福島 洋

##### 【平成20年度科学振興調整費採択補完的課題成果報告】

- 3) 事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤  
横浜国立大学大学院 環境情報研究院教授 三宅淳巳

##### 【各省施策の報告】

- 4) 河川における微量化学物質の実態と評価(国土交通省)  
(独)土木研究所 水環境研究グループ 水質チーム上席研究員 鈴木 穰
- 5) 化学物質曝露に関する複合的要因の総合解析による曝露評価 - 化学物質の複合的曝露の把握と解析 - (環境省)  
(独)国立環境研究所 環境リスク研究センター 曝露評価研究室長 鈴木規之
- 6) Percellome トキシコゲノミクスの進捗 - 網羅性を担保した遺伝子発現変動の抽出による分子毒性研究 - (厚生労働省)  
国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部長 菅野 純
- 7) 化学物質管理のためのリスクトレードオフ解析手法の開発(経済産業省)  
(独)産業技術総合研究所 安全科学研究部門主幹研究員 吉田喜久雄
- 8) 環境マネジメントに資する化学物質リスク評価の基盤形成について～詳細リスク評価と教育の経験に基づいて～(文部科学省)  
大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻教授 東海明宏

#### 5. その他

- (1) 成果報告会としては多数の参加者があり、発表ごとの質疑応答も活発に行われるなど盛会であった。
- (2) パネルディスカッションでは、各研究開発・施策の現状と問題点、各分野の連携のあり方、中・長期の戦略についての議論が行われた。

